

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000064		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム りんご		
所在地	岩手県陸前高田市高田町字中田69-2		
自己評価作成日	平成28年11月12日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0391000064-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の掲げている理念である「ゆっくり・一緒に・楽しみながら」を大切にしている。特にホームのすぐ隣には畑があり、季節毎の野菜等を入居者の皆様と一緒に作業をして収穫し、食材として調理し食卓を飾っている。また、併設されている介護老人保健施設や松原クリニック、訪問看護ステーションと連携し入居者の状態変化や急変に対応できる体制が造られている。ご家族等の要望がある場合には、看取りを実施する事が出来る体制が整っており併設の松原クリニック訪問診療との連携により24時間体制での支援ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅地を經由し、海を臨むことの出来る高台に位置し、法人の設置した医療、福祉、介護関係施設が同一敷地内に設置され、各種行事や業務運営の連携体制が図られ、より充実した利用者への介護サービスの提供がなされている。特に、法人として、地域の介護関連施設による安全、環境などの各種委員会を開催し、現状の把握、課題、今後の対策が検討され、より良いサービスの提供につなげている。また、防災対策については、震災時の経験を活かし、職員の業務分担や取るべき行動を明記した独自のアクションカードを作成・携行し、緊急時の対応の適正化を図っている。事業所運営にあたっては、理念に基づき、介護サービスを提供するため、職員間や管理者とのコミュニケーションを大切に、会議や日常の会話を通じて、何事も言いやすい雰囲気を醸成し、意見や提案を活かし、利用者や家族の意向に沿った利用者本意のサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「ゆっくり」、「いっしょに」「楽しみながら」の理念のもと、個々の入居者が本人のペースで暮らすことができるようホーム内に掲示し職員で共有している。	理念は、事業所の開設時に決定し、その具現化を毎年振り返り、次年度の方針や事業計画に反映させるとともに、毎月の会議や毎日の業務引継ぎにより、各利用者の状況を把握し、対策等を共有し、より良いサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	正月には悪魔祓いに地域から出向いていただいている。また7月には毎年恒例の流しそうめんを地域の子供達と一緒にやっている。9月には市内の保育所に出向いて運動会の総練習を見学・応援している。	地域の文化や行事との触れ合いを大切に、正月の悪魔祓いの事業所の訪問、地域の子供達との流しそうめん、運動会の開催などにより、多くの地域住民との交流を行なっている。また、地域の福祉施設のボランティアを受け入れ、踊りや歌の披露、ハンドマッサージの実施など、地域に根ざした運営に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、ホームでの取り組みや認知症ケアについて報告している。また行事等において子供会や父兄に認知症の方の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域住民や家族も参加し事業所の活動を報告・情報交換をしている。	地域の住民や関係者の参加を得て、隣接するグループホームと共同開催している。共に課題や対策を共有し施設運営に資するとともに、食中毒やインフルエンザの予防など、関係者の意見、提案を取り上げ業務に活かしている。また、台風被災の事業所に職員を派遣し、震災の経験を活かした復興支援を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して市役所の長寿社会福祉課の担当に出席頂き情報を頂いている。	市主催の会議に出席し、関連情報を入手するとともに、研修会などに職員を派遣し、復命研修会を開催するなど、職員の能力の向上と利用者へのサービスの充実に活かしている。また、介護認定の更新など家族の要請により市に出向き、対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、過ごされている。日中は施錠せず、夜間は防犯のためにしている。職員は法人内の勉強会に参加、学ぶ機会を設けている。危険な行動が見られた際はスタッフ間で情報共有し、見守り強化している。	法人主催の研修会や委員会に職員を派遣し、知識の習得と、職員対応の充実と事故防止に万全を期している。特に、言葉遣いには、気が付いた時に職員間で注意し合うなど、親しい中にも利用者の人格を大切にした対応に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修会に参加し、事例をふまえた内容で勉強している。職員の言動で入居者を傷つけることがないように注意しあい気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修や外部研修に参加するなど学ぶ機会を設け、理解に努めている。入居者が必要と判断される場合は、入居者・家族に説明し活用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホーム内の生活の様子を見ていただき、契約時には十分な説明の時間をとることで入居者、家族が安心して納得していただいた上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族へお便りお送り入居者の身体状況や買い物で使用した金額を報告している。また面会や電話を通じて家族等にその都度話す機会を設けている。	利用者や家族から、入居時に意向を把握するほか、家族に毎月のお便りや担当者のメモを送付し、利用者の状況を知らせ、家族の意向を把握している。また、日々の生活の中で、利用者ごとの意向を捉え、散歩、買い物、食事、農作業、洗濯物の片づけなど、希望に沿うように対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフミーティングを行い職員から意見や提案を出してもらっている。雑談の中から職員の思いを聞きとることも多いので、何でも話してもらえる環境作りに努めている	職員会議や法人の各種委員会への担当者の出席により、各職員の意見や提案を行い、利用者への対応や行事計画に反映させ業務運営に活かしている。特に、地域の方や家族への行事案内や実施内容の改善など、地域との触れ合い、家族との連携を大切にしている。職員の資格取得、勤務時間変更などにも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内に人事考課制度があり、職員は各自目標を設定し、目標クリアに向け個人またはチームで日々取り組んでいる。評価や目標の設定は管理者が個人面談し、各自が納得できるよう話す場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に新人研修～経験年数に応じた研修カリキュラムがあり、参加している。法人外では認知症研修や各関係研修に参加できる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、沿岸ブロック定例会や法人内のGH交換研修等を行い、他ホームの職員との意見交換、事例検討会等を通じ、情報収集の場を設け、サービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や、グループホームにご本人も出向いていただき、困っていること、不安に思っている事に傾聴し、安心して利用できるようホームで話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の関係・状況を把握し、サービスを導入することで、不安な事、要望に傾聴し、可能な限り対応している。サービス開始後も連絡表・面会を通じ入居者本人の状況を報告、要望を聞き対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている支援をケアマネジャーとホーム関係者が必要と応じ老健、特養の相談員と連携を取りながら事前に話し合い他のサービス利用も含めた対応を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族、入居者本人からの情報により生活歴から出来ること、趣味を活かしていけるように場面に応じ、食事作り、畑作業等、入居者から教えていただき尊重した姿勢で関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、情報を得ることにより、入居者本人が過ごしやすい生活を送れるように協力を働きかけている。毎月ホームでの生活の様子、健康状態をお便り、連絡表に送付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを利用し、入居者本人の馴染みの人や場所へ出向き訪問等も行っている。以前から利用されていた理容店にも行き、散髪を行っている	季節ごとの花見やお祭りの見物、実家周辺などのドライブに出かけるほか、買い物に同行し、近所の方々の声掛けなど、馴染みの方や近所の方との触れ合いを大切にしている。家族による正月の外泊や墓参、地域の敬老会参加などにも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、家事作業、軽作業を協力して行えるようホーム内の環境にも配慮し、声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方には、時々面会に行ったり、施設に対し細やかな情報を提供するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話や生活歴、ご家族からの情報から本人の意向を把握しケアに当たっている。	日々の生活の中で、仕草や言葉遣いなどで、本人の意向を把握し、パソコンに連絡ノートを作成し、情報を職員間で共有し、利用者の希望や意向に沿ったサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人やご家族からの会話から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握し職員間での情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態変化を見逃さないよう日々心身状態の把握に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が本人・家族の意向を確認、アセスメント・ケアプランを作成し、計画作成担当者が統括して、職員間で共有している。毎月のカンファレンス会議を開催し、意見交換している。ケアプランの見直しを行っている。	利用者ごとの担当者による意見等を参考に、計画作成担当者が素案を作成し、職員会議で検討を加え、看護師や医師の指示を得て、家族の同意の下、計画を作成している。特に、家族の訪問時に希望や意向を把握し、計画の見直し等に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やケアプランに基づき実践をし、結果を介護記録に記録、本人の発言、表情、精神状態の情報より介護計画の見直し、実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下、状態変化等の際は家族と相談の上、状況に応じた他事業所の説明、必要と判断した際の他事業所との連携を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所が併設する松原苑の敷地内にあり、尚且つ行政区の堺目であり地域との結びつきが弱い。しかしこれまでの活動もあり地域の子供会等との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向に沿うかかりつけ医を受診されている。家族の付添の受診の際は、バイタル表や最近の状態を記入した受診連絡表を渡し、主治医に伝えていただいている。	利用者の6名は、入居時に家族の意向により、法人のクリニックに転医したほか、3名は、かかりつけ医を受診している。受診時には、血圧手帳やバイタルリストなど参考資料を提供している。また、歯科や整形外科についても同様である。家族の要望により、職員が受診同行した場合は、家族に受診状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護による健康チェックを実施、申し送りノートを活用し、情報共有できるようにしている。入居者の体調不良時には、報告しアドバイスや訪問をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療面での確認書・同意書を説明の上、いただいている。入院の際も、居室システムを説明し、安心して付添を受け入れるように支援している。入院中、職員も見舞いに伺い、状態把握し退院後もスムーズに生活できるよう看護師からもアドバイスを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においても看取り体制があり、訪問診療・訪問看護との連携を図り入居者の状態の変化を家族に伝えている。本人・家族の意向を最大限に取り入れられるよう職員間で統一したケアが提供できるようにしている	重度化した場合の対応については、マニュアルや看取り方針を作成し、入居時に家族等に説明し、同意を得て対応している。看取り経験もあり、職員の実践研修も実施している。緊急の場合は、訪問看護ステーションの看護師や、訪問診療医師などの指示により、緊急処置や消防への連絡など、万全を期している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、心肺蘇生法の講習をスタッフ全員受け、急変時には対応できるようにしている。併設の松原クリニックや訪問看護との連携でカバーしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月に消防署員を交えての夜間想定火災避難訓練を実施しており、職員の消火器を使用するの消化訓練も実施している。アクションカードを作成し、どの職員であっても有事に対応できる様マニュアル化してある。	避難訓練は、隣接するグループホームと共同開催したほか、消防署員立会いにより、夜間想定、連絡通報、消火訓練を実施した。高台で民家より離れており、同一敷地内の福祉施設等の職員による避難者の見守り支援を得た。食料3日、自家発電、ガスコンロを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに配慮し、個人の尊厳を大切にしている。身体ケア際にはプライバシー保護を厳守している	理念による介護サービスを具現化するため、標語を季節ごとに作成し、利用者への言葉遣い、排泄の失敗対応など、利用者の心情を大切に対応している。お便りは、家族に送付し、写真は家族同意のあった利用者を掲載している。一般用パンフレットは、文字とイラストで利用者の写真は掲載していない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を引き出し、尊重できるように選択を設けている。変化があれば、職員間での情報共有を図り、対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、入居者の訴えを傾聴し、可能な限り希望に沿って支援し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせたおしゃれ、身だしなみにお化粧品道具を準備したり、衣類も選択を設け、着ていただき支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に出来る範囲で、野菜の切り方、盛り付け、片付け等に参加される。メニュー等も会話の中から好みの食べ物を聞き出し、見て楽しんでいただけるよう盛り付けも工夫している。	季節の旬の物や中庭での畑栽培の野菜を活用し、秋刀魚などの海産物、ひな祭りや年越しなど地域に根ざした食事、ひつまみなどの郷土料理を提供している。前庭での流しそうめんや焼き芋など、地域との交流のほか、通院時の家族との外食も実施している。利用者による料理の前準備のほか、後片付けなども行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量、水分量を把握し、メニューに栄養の偏りのないようバランスのとれた提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の有する能力を生かしながら、毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後には義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で、尿意便意曖昧な方に対しては声掛け、トイレでの排泄できる支援をしている。	排泄チェック表をポータブル端末に作成・記録し、各利用者の排泄パターンを把握し、職員間で共有し、時間や仕草をみてそれとなく誘導し、自立支援を行なっている。夜間の排泄支援は、2名にポータブルトイレを貸与し、状況を見て介助を行っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳の提供、食物繊維の多い食材を取り入れた献立の工夫をし、体操や散歩等、体を動かす時間を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴。夕方希望の入居者にも対応している。	入浴は午前、午後2回入浴時間を設定し、利用者の状況により、入浴介助している。入浴拒否者には、気分転換を働きかけるほか、時間や日にちを変更して対応している。季節浴は、りんご、ゆず湯、入浴剤を使用している。皮膚科受診の方は、入浴後に保湿剤を活用している。異性介助は特に問題はなく、話しや歌など楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて、居室やソファで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の確認、申し送りにて職員間で共有し、把握に努めている。また、情報をまとめたファイルを活用いつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、得意な事を理解し、炊事、洗濯物たたみ、裁縫、畑仕事に参加されたり、買い物やドライブ等、職員と一緒に出かけ、欲しいものがあれば、購入するといった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブに出かけたり季節に応じ、外食する時間を設けた企画も年間を通し、計画を立てている。家族と一緒に出かける際は、ごゆっくりされるよう促している。	利用者が、中庭での畑作業を作業衣に着替え、長靴、手袋を使用し、行っている。春から秋にかけて、外に出て多くの野菜を栽培している。桜、紅葉、弁当外食などのドライブでの外出は、年間計画を立て、実施している。天気が良ければ、敷地内の散歩やテラスでの日向ぼっこのほか、個人の買い物や食材の買出しに同行している。正月、お盆には家族との外泊する方もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームりんご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で管理。欲しいものがあれば、買い物に同行し、購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの訴えはないが、要求の際は、電話を取り次ぎ、いつでもお話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や作品を飾り、清潔感や安心感を引き出す芳香剤の使用、生活館や季節感を採り入れ居心地の良い環境に配慮している。	広々としたロビーに、食食用テーブル、コタツ、ソファが配置され、それぞれ気に入った場所で、くつろいでいる。暖かい色調で、南の天窗から柔らかい光が射し、床暖房に加え、エアコンや空調、加湿器などで、温度等が管理されている。利用者の作品の掲示やクリスマスツリーや植物が置かれ、季節感が感じられる快適な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームにイスを置いたり中庭にベンチを置き、思い思いに過ごせるような居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具を持って来ていただき自宅での生活の延長のような雰囲気づくりを心がけている。入居者の中には位牌を持ちこまれている方もおられる。	床暖房、加湿器により温度、空調が管理され、ベッド、手洗い、クローゼット、ホータルトイレが設置されている。利用者は、家族写真、ラジオ、位牌、イス、テーブルなど自宅での馴染みの物を配置している。ナースコールが設置され、夜間排泄介助、転倒予防など、安全、安心できる、居心地の良い環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ等のプレートを目線に整備し、安全に配慮しながら出来ることを考慮している。不備があればすぐ点検、整備を行っている。		